

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	27	施策名	交通環境の構築	
小施策コード	27-4	小施策名	都市活動を支える幹線道路の整備	
小施策 主管課等コード	083000	小施策 主管課等名	道路建設課	
評価責任者名	富樫 正幸		内線番号	2720
評価シート作成者名	田口 順一		内線番号	2721

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
平日の主要幹線道路の混雑度	↓	割合	1.11	1.04	1.03	1.09	1.08
交通の手段分担率の変化（自動車）	↓	%	59.3	63.9	64.7	56.0	53.0
交通の手段分担率の変化（バス、鉄道）	↑	%	14.7	12.5	12.6	17.0	19.0
交通の手段分担率の変化（徒歩、自転車など）	↑	%	26.0	23.6	22.7	27.0	28.0
1日当たりのバス・鉄道利用者数	↑	人	71,962	76,192	75,191	74,400	74,600

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
幹線道路利用者	円滑に移動できる。
現状と課題	都市部の主要な道路については、公共交通の利用促進や中心市街地の活性化などを目的として、幹線道路としてのネットワーク形成を図るため、より効率的で効果的に整備を行う必要がある。
取組の方向性	バス・自動車・自転車などの車両の円滑な走行空間や、安全な歩行空間の確保など、交通環境の改善を図るための幹線道路の整備を進める。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
幹線道路改良率	↑	%	63.9	65.4	65.6	67.5	71.0

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 4 市民ニーズの把握

平成28年度盛岡市まちづくり評価アンケートの集計結果によると、「幹線道路や公共交通機関が利用しやすい」と感じる市民の割合は、「とても満足」「やや満足」を合わせて27.7%となっており、「どちらともいえない」の35.0%を下回っていることから、より一層の施策の推進が求められている。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	幹線道路としてのネットワーク形成を図るため、より効率的で効果的に整備を市が行う必要がある。	50
	国・県・ 他自治体	ネットワーク形成には国県道の整備の促進が必要である。	50
	市民・ NPO		
	企業・ その他		

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

(理由)

幹線道路としてのネットワーク形成に果たす役割は重要であるが、より効率的で効果的な整備が求められており、国県道とのバランスのとれたネットワーク形成が必要であり現状維持とするものである。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 「道路橋梁整備促進同盟会等事務事業」「道路対策協議会事務事業」において、国への要望活動を行い、交付金の安定的な予算確保につなげる。
- ・ 丁寧な説明でねばり強く、真摯に地権者と向き合い、理解を得られるよう交渉する。

2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
国への要望活動を行い、交付金の安定的な予算確保	「道路橋梁整備促進同盟会等事務事業」「道路対策協議会事務事業」で国への要望活動を実施	A
丁寧な説明でねばり強く、真摯に地権者と向き合い、理解を得る	丁寧な説明でねばり強く用地交渉を行う	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 幹線道路改良率が上がった。
- ・ 着実に事業を実施しており、区間ごとに完成や供用をしている。

(2) 成果をあげた要因

梨木町上米内線等街路整備で用地確保が完了するなど、着実に成果をあげている。

(3) さらなる成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

- ・ 用地交渉が難航している案件もあり、誠意をもって地権者と向き合う必要がある。
- ・ 事業費、特に国費の確保が難しく要望に対する交付率が低い。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

- ・ 事業費の確保が難しい。
- ・ 難航している用地等の確保が難しい。

(2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 国費の内示率が低く安定していないことによる。
- ・ 地権者の高齢化や移転後の生活再建が不透明なことによる。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 選択と集中をより進めて効率的で効果的な事業の執行に努める。
- ・ 生活再建等の要求について、地権者と折り合いをつけていく。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

- 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業
該当事業なし。
- 2 1で記載した事業についてその理由
- 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 国への要望活動を継続し、交付金の安定的な確保につなげる。
- ・ 丁寧な説明でねばり強く、真摯に地権者と向き合い、理解を得られるように交渉を継続する。
- ・ 事業の進捗状況等を地域住民に定期的に説明し、地権者の理解を得られるよう努める。